

ラ フォレ セ ラ ヴィー 森こそ命ー



La Forêt, C'est la Vie !



ブルキナファソ・タカバングウ村での断食明けのお祭りの風景。祈りと慎ましい生活を続けたラマダン期間が終わり、お祭りの日には男女とも着飾り、音楽が鳴り響きます。晴れやかさと賑やかさに溢れるお祭りに、村が活気づきます。

緑のサヘルが活動している国々では、暮らしている部族もさまざまですが、宗教もさまざまです。イスラム教やキリスト教だけではなく、場所によっては伝統的な信仰を保持している部族もあります。とはいえ、日常的に出会う機会が多く、注目してしまうのは、イスラム教です。

早朝5時から鳴り響く、その日最初のお祈りの時を告げる拡声器からの声。そして、彼らは必ずといっていいほど、2人ないしは複数人でお祈りをします。聞いたところによれば、1人よりも2人、多人数のほうが、与えられる幸福が増大するからだそうです。十数人の男性が集まってお祈りをしている情景には圧倒されます。

また、イスラム教といえば、すぐに思い浮かべるのがラマダン（断食）です。今年は9月中旬から10月中旬までが、ラマダン月でした。ラマダン期間中は、日中の飲食ができず、また嗜好品も控えてはなりません。特に「喉の渇きをいやせない」ことは大変ですが、今年は幸いにも雨季の時期だったため、比較的負担が和らいだようです。このラマダン明けの祭りから、イスラム教では新年が始まります。実は、一足早く、新年を迎えているのです。

そして、イスラム教で最も盛大なお祝いが、タバスキ（犠牲祭）です。今年は12月20日ごろのようです。このタバスキは聖地巡礼の最終日から4日間行なわれる聖なる祭日ですが、村では町に出稼ぎに行っていた息子や嫁いだ娘など、家族が集まるうれしい日でもあります。

今年も残り1ヶ月くらいとなってきました。寒さが増してくるにつれ、年の瀬が押し迫ってくる感じがします。なにかと慌しくなる時期ですが、心は温かくして迎えたいものです。

（緑のサヘル代表 岡本敏樹）

2007年を振り返って



緑のサヘル 代表理事 岡本敏樹

早いもので、今年も残り1ヶ月程度になってしまいました。夏ごろまでは、季節の足取りは比較的落ち着いていたのですが、残暑を迎えた辺りから駆け足になり始めたような気がします。とはいえ、そのような時間の流れとはさほど関係なく、一年を通して盛りだくさんな年でした。

今年は、ドイツで行われた地球温暖化防止会議や映画「不都合な真実」が注目を浴びたこともあり、さまざまなところで「環境」という言葉が話題になりました。正確には、「温暖化」の議論の中での世界の現状であるとか、二酸化炭素吸収源としての緑化活動が話題にされました。また、「アフリカ」という言葉もキーワードであったと思います。来年はTICAD IV（第4回アフリカ開発会議）が横浜で開催されることになっており、その準備も進んでいます。

さて、ブルキナファソでは、中央西部州において小学校緑化支援を開始しました。中央政府が進める「一校一林」運動を背景に地方において取り組まれている緑化活動への支援を、地元の団体と協力しながら行っています。両親の世代と比べて大きく変化し、また変化しつつある生活環境に直面して生きていくためには、その変化に対処できる知識や技術だけではなく、意識の切り替えも求められます。この支援を通じて、そのような働きかけが出来ることを期待しています。

一方チャドでは、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）とのパートナー契約に基づいて実施していたスーダン難民支援事業は2006年12月末日を以って終了しましたが、アベシエ市で行ったJICAとの共同事業である小学校緑化支援活動は、引き続きフォローアップをしています。また、首都ジャメナやバイリ村などで環境保全活動に取り組んでいる元スタッフの団体に対する支援も続けています。この新しい手法による支援活動については、まだまだ十分な経験を積めていませんが、可能性の広がりを感じています。

タンザニアで行っている国際緑化推進センターとの共同事業は、順調に進んでいます。東アフリカでの活動は、緑のサヘルにとって初めてのことです。雨季と乾季の時期が西アフリカとは逆であることや、見かける家畜の種類や頭数に違いがあるなど、これまでとは勝手の違う要素がありますが、住民の生活状況や抱えている問題は良く似ています。現地の団体との協力により進めており、今後は住民の意識への働きかけや教育機関における取り組みの活性化を図っていくことになっています。

また、国内のいろいろなイベントへの参加や、報告会の企画など、日本でも積極的に活動しました。とりわけ、スタッフの出身県での報告会やイベントなどでは、支援者の皆様を身近に感じることが出来ましたし、カレンダーのご注文を通じて寄せられるメッセージには励まされました。

振り返ってみれば、国内も現地もたゆみなく取り組みを続けることが出来たように感じますが、その折々には頭を抱えたいような課題にも直面しました。目をそらすことなく乗り越えてこられたのは、スタッフがそれぞれ力を発揮してくれたこと、またご支援の賜物だと感じています。2007年は、いろいろな意味で、広がりを実感できた年でした。



＜ローカル団体支援事業＞

●チャド緑化青年組合（Groupement de Jeune pour un Tchad Vert）

旧スタッフの一人により組織され、首都ジャメナにおいて苗木生産と配布、地域緑化指導をしている、「チャド緑化青年組合」が設置・運営している育苗所に対して、支援を行いました。

同組合は、9年に及ぶ活動を続けてきましたが、近年日干しレンガで造られている育苗所の囲いが降雨によって一部崩れてしまい、苗木が家畜の食害を受けるという問題を抱えていました。今回、この囲いを金網に変えるための支援を行い、育苗所の栽培環境の改善を図りました。

今年の育苗状況は、12樹種を17,000ポットに播種し、16,520本が生産されました。そのうち、14,000本が配布されました。



降雨により崩れ、低くなった塀を乗り越えてくる家畜を防ぐため、棘のある枝で補強している。

＜JICA 協力事業＞

●アベシエ市環境教育事業

ニュースレター27号でお知らせした、アベシエ市における学校敷地の緑化と環境教育支援についてですが、現地のNGOと協力して、追跡調査をしています。

2006年8月には、選定した5校において、現地NGOスタッフの指導のもと生徒と教師により苗木の植栽が行われました。果樹を含む3樹種100本の苗木が植えられ、家畜の食害から保護するための囲いも設置されるなど、事前に行った講習会で学んだ通りの手順で首尾よく進められました。さらに、水遣り等の管理作業を行うための道具も支援し、厳しい乾季に備えました。

それから、1年以上が経過し、現在の苗木の状態がどのよ



アプリケーション小学校に植えられたニームの苗木。保護囲いをはるかに越えて成長している。

うであるか、追跡調査を行いました。結果として、

31本が枯れてしまいましたが、69本は元気に成長していることが判明しました。植えられた時には、囲いで見えなくなってしまったほど小さい苗木でしたが、中には囲いの高さをはるかに越し、2メートル以上にまで大きくなっている苗木もありました。

依然として治安状況が不安定なアベシエ地域ですが、生徒たちの世話によって、乾燥した地でも大きく成長した苗木のように、人々の生活が回復することを期待したいものです。



講習会の様子。実習として、実際に苗木を植えた。



＜タカバングウ地域生活保全事業/技術移転事業＞

2007年度は、4つの住民グループ（荒廃地回復、畜耕、裁縫、石鹼作製）の活動進捗状況の追跡調査をしています。現在各グループとも、幾つかの問題に直面しています。

荒廃地回復グループが進める、土壌を回復し収穫量を増やす「ザイ」技術を用いた穀物栽培では、寄生植物の被害や短期集中型の降雨だったことにより、穀物が十分に育たず、期待したほどの収穫が得られないかもしれません。

畜耕グループでは、雨季の開始が遅く、ストックしていた家畜の飼料が底をついたため家畜が弱ってしまい、作業が出来ませんでした。



穀物に寄生した植物



裁縫グループが作製した服

裁縫グループは、通常オーダー

メイドで服を買うこの土地では、既製服はお下がりだと思われてしまい、なかなか売れないという問題を抱えています。

石鹼作製グループは、材料の一つであるカリテバターの市場価格の高騰により、このままカリテバターを使用し続けると採算が合わなくなるという問題に直面しています。

しかし、どのグループも活動意欲は高く、四苦八苦しながら問題の解決方法を模索しています。緑のサヘルは、アドバイスをしながら活動が順調に進むよう手助けをしています。

＜バム県 小学校緑化支援＞

7月上旬に10校で植林講習会が行われ、同月下旬には各学校で植林が行われました。7月中旬から9月までは夏休みだったのですが、学校によってはPTAが積極的に活動し、植えられた苗木の手入れをしました。

これまでのところ、どの学校も適切に植林しており、苗木もよく成長しています。各学校長や教師、PTA代表の話では、年度末に予定している成績発表会で優勝するために、みんなが意欲的に取り組んでいるのだそうです。



学校の境界線上に植樹

10月に本格的な乾季に入ってから、毎日の水やりが欠かせなくなりました。また、家畜を追い払ったり、保護柵を手入れしたりと、維持管理は以前よりも大変になりました。このような作業が、苗の成長に大きく左右します。

緑のサヘルはローカルNGOのAJPEE（環境牧畜保全青年協会）と連携し、苗の補植、動物や害虫などによる被害への対処、適切な維持管理のアドバイスなどを行っています。



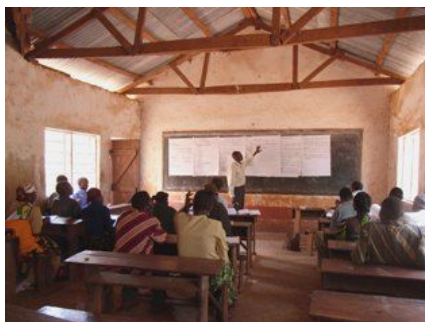
＜難民キャンプ周辺荒廃森林等保全・復旧事業＞

今年の4月から、タンザニア西部のキゴマ州キボンド県で、国際緑化推進センター（JIFPRO）と協力し、「難民キャンプ周辺荒廃森林等保全・復旧プログラム策定事業」が進められています。活動の実施はタンザニアの現地団体である REDESO（Relief to Development for Society：社会のための人道・開発支援）に委託し、短期の出張を行って進捗状況の確認・調査をしています。

既にムグンズ村に苗畑が設置され、対象地域に多く自生し、薪や木材用として利用されている6樹種 27,600本が播種さ



ムグンズ村に設置された育苗所



ムグンズ村環境委員会が参加した講習会・話し合いの様子

れ、93%が順調に発芽しています。11月からは住民への苗木配布と植林が始まる予定です。

また、住民の環境意識を高めるため、村の環境委員会の活性化や改良かまどの普及、小・中学校での環境クラブ活動の支援も行っています。しかし、キボンド県では、森林資源の減少やその他の環境問題は住民の生活を脅かすほどには深刻ではないため、住民の危機感や環境意識は低いのが現状です。今後は、環境が生活と密着しているものだという事を住民に理解してもらえよう取り組みを模索していかなければなりません。

＜新規事業形成調査（キゴマ州・ドドマ州）＞

上記の事業と平行して、タンザニアでの独自プロジェクトの可能性を探るべく、同国内において、人為的な環境破壊が進んでいる地域での調査を行ないました。タンザニア西部にあるタンガニーカ湖沿岸のキゴマ州にある村落と、年間降水量が500mm強であり西アフリカのサヘル地域と気候が類似するドドマ州内にある村落を対象に、生活状況や地域環境の現状について調査を行いました。

キゴマ州とドドマ州での調査結果を比較した結果、後者の地域で起こっている環境問題に関しては、西アフリカのサヘル地域にみられる状況に共通する点が多いことが分かりました。また同州は、比較的交通の便が良く、環境に対する住民の関心が強い上に植林の要請が高い、などの利点も明らかとなりました。候補地としては有望ですが、実施を含め活動内容を検討するためのさらなる調査が必要です。



乾季であるため下草が枯れていると
はいえ、生育している樹木は少なく、
全体的に植生が乏しい地域もある。
（ドドマ州内）



岩手講演会報告

「緑のサヘル」は毎年、岩手県において講演活動を行っています。これは事務局長の菅川が、自らの出身地である岩手県を講演しながら廻るもので、教育関係者や支援者の協力を得て既に10年以上にわたって続けられています。これまでに訪れた学校は延べ100校を越えており、ふだん接することのできない現地の生活や砂漠化の現状を知る良い機会と好評を得ています。



葛巻町立小屋瀬中学校での様子。

今年は8月28日の杜陵小学校（盛岡：1・2年107名）を皮切りに、城西中学校（8/29 盛岡：3年153名）、滝沢小学校（8/30 一関：3～6年109名）、岩手教職員組合いわい支部（8/30 一関：15名）、小屋瀬中学校（9/3 葛巻：1～3年27名）、葛巻公民館（9/3 葛巻：20名）等で講演を行いました。押しなべて参加者の関心は高く、いずれの講演も熱気のこもったものとなりました。

11月にも第2期講演旅行が計画されており、その様子はまた改めてお知らせしたいと思います。

イベント報告

① グローバルフェスタ JAPAN 2007 (10月6～7日)



開催期間中の2日間とも天気に恵まれ、国際協力に携わるNGO・NPO団体や多国の大使館の展示ブースでは民芸品の販売や団体紹介、地域料理の試食などが行われました。スタンプラリーの影響もあり、緑

のサヘルのブースには多くのお客様が訪れました。(写真はパネルを使って活動紹介をしているところです)

② 山梨県民の日 国際フェスタ2007 (11月10～11日)

初日は生憎の雨とどんよりした天気の影響で客足も少なかったのですが、2日目は降水確率70%の予報なんておかまいなしの快晴のもと、オスマン・サンコン・バンドの軽快なアフリカン音楽を中心に賑わいました。緑のサヘルでは、日本では馴染みのないアフリカのお茶・オゼイユジュースを紹介しました。(写真は民芸品とオゼイユジュースの説明をしています)



<その他 報告会の開催>

・9月24日 『アフリカ・ブルキナファソ ～生活と環境を守る～』 (水真洋子)

大阪府高槻市総合市民交流センター

・10月18日 『砂漠化の中の生活 アフリカ、ブルキナファソ』 (竹越 久美子)

千代田区立旧今川中学校

ありがとうございました

【 継続会員のみなさま 】

太田 弘子／小枝 清子／北川 華子／佐藤 由規／佐野 のぶ／天野 洋子／佐々木 セツ／鈴木 寿一
土屋 絢子／田辺 諄児／小川 あい子／福川 佐代／寺川 幸土／豊田 稔／清水 好美／中島 恵美
田中 眞智恵／橋口 日出夫／本多 れい子／遠藤 保子／松本 キミ子／古川 フミ子
大池 良平／縄田 諄子／畑中 健一 他 匿名をご希望の方 1名

【 ご寄付を頂きました。ありがとうございました。 】

太田 弘子／小枝 清子／碓井 道子／けんぶち絵本の里を創ろう会／小林 伸張／山田 勝衛／田辺 諄児
山本 淑子／帯瀬 憲五／渡辺 かをる／小池 昌子／丹 邦子／村上 和代／田原 隆司／榎本 みつ枝
瀬戸 進一／淑徳与野高等学校 3年9組／鈴木 潤／柴山 文男／那口 真理子／猪股 秀章／高松 千枝子
株式会社INAX 述べ305名(8月・10月)／横木 将人／横木 和子／植田 友則／石黒 勇平／内記 悦子
大阪日本創造教育研究所／株式会社 アスコット／石川 麻衣／高 克暢／江刺 和弘 他 匿名をご希望の方 37名

【 助成団体からの助成金 】

毎日新聞東京社会事業団 ／ 財団法人 地球市民財団 ／ 財団法人 国際緑化推進センター
(敬称略、入金順)

上記は 2007 年 8 月 1 日から 2007 年 10 月 31 日までにご支援頂いた方のご芳名であり、2007 年 11 月 1 日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。また、ご芳名の掲載につきましては、お名前前の公開を承諾された方のみを掲載させて頂いています。あらかじめご了承下さい。

🌸 インターンさんありがとう！これからもよろしくです☆



9 月中旬からインターンをさせてもらっている源実恵です。緑のサヘルさんには貴重な体験の場を提供してもらい、ありがたいの気持ちでいっぱいです。将来はここでの経験を活かすことのできる仕事をしたいと思っています。2 月までの短期間ですがよろしくお願いします。



掲載されました



- ▶ (株)実業之日本社：『サピックス重大ニュース 2007』
- ▶ (株)ベネッセコーポレーション：進研ゼミ教材『理科総合B』1月号(高校1年生用教材)
- ▶ 真宗大谷派(東本願寺)宗務所 出版部：『同朋新聞』(11月号)

他、電気事業連合会と関西電力株式会社が主催するライブ配信授業用映像にも緑のサヘルの写真が使用されています。

おしらせ

書き損じ葉書で国際協力しませんか？

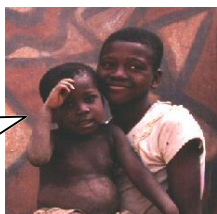
書き損じ葉書、使わなかった古い年賀状などを大募集しております。1枚でもかまいません。どうぞ緑のサヘルにご寄付下さい。いただいた葉書は、新品や切手と交換もしくは換金し、活動に利用させていただきます。

2008年 緑のサヘル オリジナルカレンダー

今年のカレンダーは発売時より大変な好評を頂いており、おかげさまで例年に比べて多くの方からお問い合わせを頂いております。一冊の売り上げ（¥1,000）で、苗木を30本購入することができます。現在行われているブルキナファソでの学校内植林事業をはじめ、売り上げの全ては緑のサヘルの活動に使用されます。

ご自宅用、大事な家族やお友達へのクリスマス・プレゼント用の一冊で、西アフリカのサヘル地域にも緑のプレゼントを試みませんか？是非ご協力ください！

私たちが住んでいるうちに、是非遊びにきてくださいね！カレンダーの表紙で待っています♪



【目次】

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1・・・表紙 | 5・・・国外活動報告 タガ コア |
| 2・・・今年を振り返って | 6・・・国内活動報告 |
| 3・・・国外活動報告 チャド | 7・・・ありがとう |
| 4・・・国外活動報告 ブルキナファソ | 8・・・お知らせ |

<編集後記>

●1月に帰国して以来、日本に滞在しています。春、夏、秋に加え、冬を満喫しています。（岡本）●講演のため岩手に来ています。寒さをものともしない北国の熱気に圧倒されている毎日です。（菅川）●ブルキナファソはもうすぐハルマツタンの時期に突入。徐々に空を舞う砂が多くなり洗濯物も外に干せなくなるかも。（竹越）●タカバング村の夜空はプラネタリウムより多くの星が見えます。有名な北斗七星も、多すぎて見分けられません。（町）●年中行事の風邪でダウン・・・皆さんも体調には十分お気をつけください。（佐藤）●久しぶりの日本の秋。東京の秋は想像していたよりも暖かいんですね。（源）

ご贈答品・お歳暮にどうぞ

ハケ岳農場の特産品

ハケ岳中央農業実践大学校の特産品がさらに充実しました。これまでの手作りチーズとアイスクリームに加えて、チーズケーキ、カレー、ソーセージなどハケ岳の新鮮な材料と確かな技術から生まれた品々が勢揃いの10セットです。各地への送料を含めた価格は下記の表にございます。大学校のご厚意により、お求めごとに定価の20%が当会に寄付されます。

【お申し込み方法】郵便振替用紙にご依頼人様とお届け先様のご住所、氏名、電話番号、ご希望セット名と数量をご明記の上、下記までお振り込みください。

00140-9-50425「緑のサヘル」

お振り込みから到着まで10日程かかります。

		関東 信越 北陸 中部 南東北	関西 北 東北	中国	四国	北海道 九州	沖縄
A	アイス10個	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
B	アイス20個	6,400	6,500	6,610	6,710	6,810	7,020
C	チーズ	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800
D	アイス / ケーキ2種	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
E	ムース	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
F	ケーキ	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
G	カレー / チーズ	5,000	5,100	5,210	5,310	5,410	5,620
H	ケーキ2種	3,230	3,330	3,440	3,540	3,640	3,850
I	カレー	3,580	3,680	3,790	3,890	3,990	4,200
J	チーズ / ソーセージ	5,730	5,830	5,940	6,040	6,140	6,350

内容の詳細をご希望の方は、事務局までご連絡ください。

* チラシの価格には送料が含まれていません。送料込みの価格は、上記の表をご参考にしてください。

La Forêt, C'est la Vie ! Vol. 32

編集 岡本敏樹 菅川拓也 竹越久美子 佐藤裕美/発行 菅川拓也/発行所 緑のサヘル/印刷 社会福祉法人 東京コロニー

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町16番地 田澤三ビル3F TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041

HomePage : <http://www.jca.apc.org/~sahel/> E-mail : sahel@jca.apc.org